

レジ袋有料化促進モデル事業 区民アンケート 調査結果

1. アンケート調査の概要

レジ袋有料化による削減の効果の検証、市内全域へ拡大する際の課題を把握するために、緑区在住の20歳以上の方(約17万人)の中から、住民基本台帳をもとに一定の間隔ごとに無作為に選出した2,000人を対象に、レジ袋有料化促進モデル事業の実施前(平成19年8月)及び実施中(平成19年12月)に郵送による無記名アンケートを実施した。実施前のアンケート(以下、事前アンケート)においては、900通(回収率45.0%)の回答を得、実施後のアンケート(以下、事後アンケート)においては、906通(回収率45.3%)の回答を得た。本章では、この意識調査の結果を示すとともに、実施前と実施後の意識調査の結果の比較を行い、判明した傾向等について分析を行う。

2. アンケートの集計結果

レジ袋の辞退状況

図2.1は事前・事後アンケートはレジ袋の辞退状況を示している。

「普段の買い物の際、レジ袋を断っていますか。(問1)」では、「いつも断っている」という回答が、事前アンケートでは8%、事後アンケートでは56%となった。また、「買う(もらう)ことが多いが、断ることもある」という回答は、事前アンケートでは29%、事後アンケートでは7%となった。

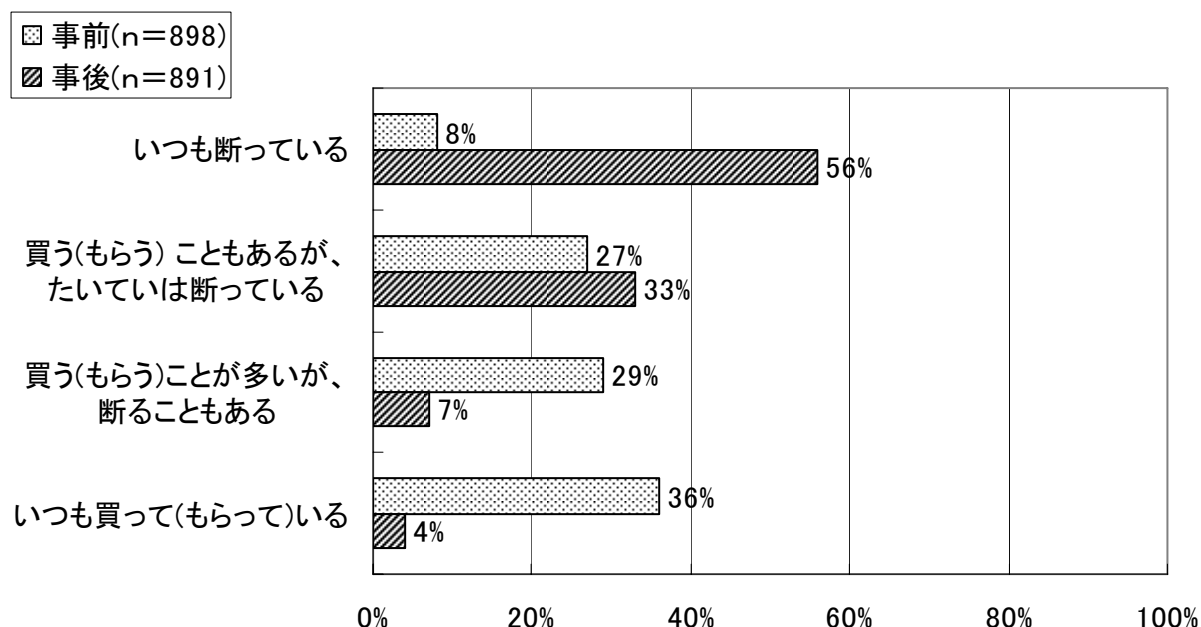


図 2.1 レジ袋の辞退状況(事前・事後アンケート)

上記の結果より、レジ袋の有料化により「いつも断っている」という回答が大幅に増え、これに呼応して「いつももらっている(買っている)」という回答が大幅に減少した。すなわち、レジ袋の有料化によりレジ袋の辞退が大幅に進んだといえる。

マイバッグ等の持参状況

図 2.2 は事前・事後アンケートにおけるマイバッグの持参状況を示している。

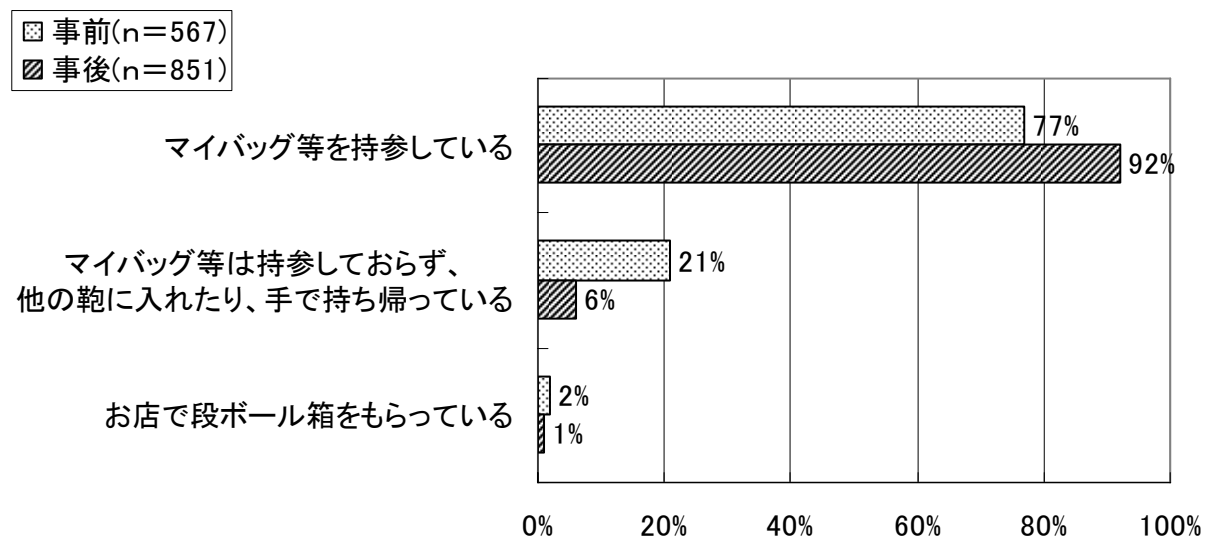


図 2.2 マイバッグ等の持参状況(事前・事後アンケート)

問 1 で「レジ袋を断っている」と回答した人に対し、「レジ袋を断るときにマイバッグ(買い物袋)等を利用していますか。(問 2)」と質問したところ、「マイバッグ等を持参している」という回答が事前アンケートでは 77%、事後アンケートでは 92%であった。

上記の結果より、レジ袋の有料化を契機としてマイバッグ等の持参が促進されたといえる。

レジ袋を断る理由

図 2.3 は事前・事後アンケートにおけるレジ袋を断る理由の回答状況を示している。

「レジ袋を断る理由は何ですか。(問 3)」については、「ごみの減量・地球温暖化の防止に役立つから」の回答が最も多く、次いで「レジ袋が有料だから」「ポイント制度等の還元があるから」との回答が多かった。事後アンケートについては、「レジ袋が有料だから」との回答が多かった。

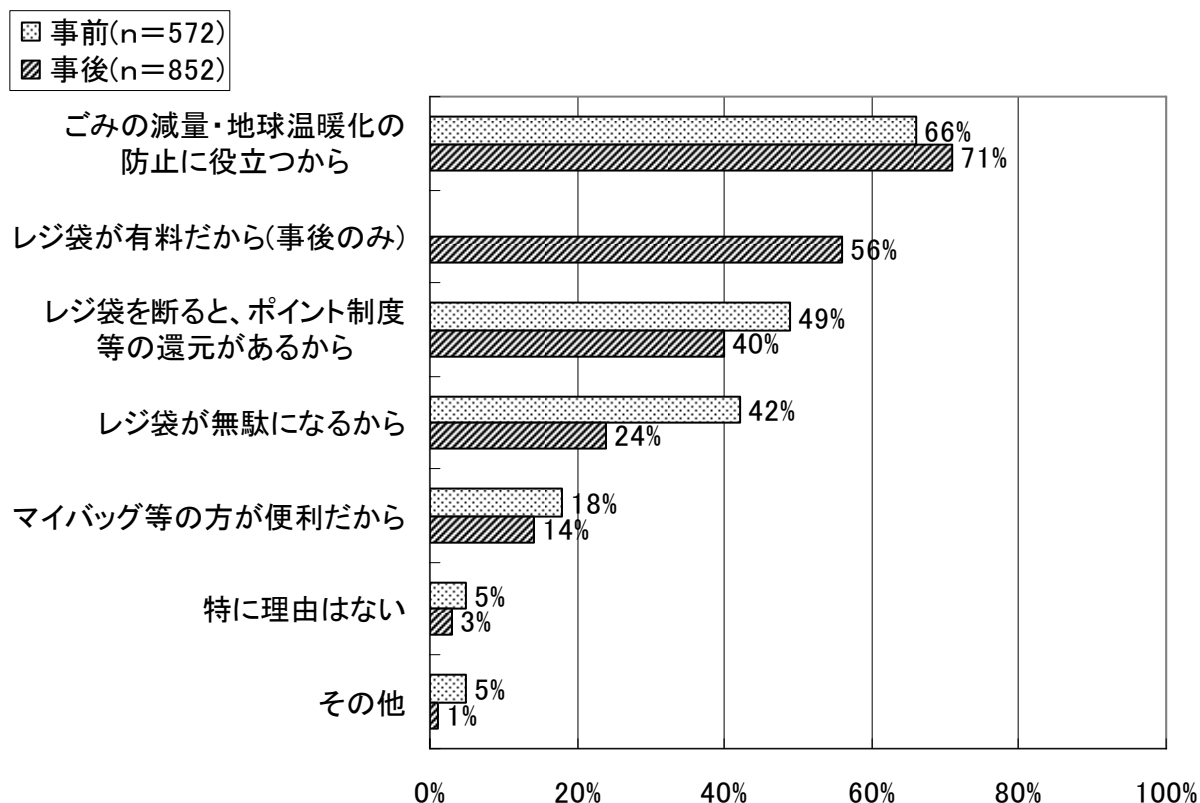


図 2.3 レジ袋を断る理由(事前・事後アンケート)

事前アンケートの結果と事後アンケートの結果とを比較すると、レジ袋を断る理由として「ごみの減量・地球温暖化の防止に役立つから」という環境問題を意識した回答が共に最多になっている。事後アンケートにおいて特筆すべきは、「レジ袋が有料だから」という回答が多くなっていることである。環境問題への意識の高さという理由に加え、有料という経済的な理由もレジ袋を断る理由として大きく働いていることが確認できる。

レジ袋をもらう理由

図 2.4 は、事前・事後アンケートにおけるレジ袋をもらう(買う)理由を示したものである。

問 1 で「レジ袋を買う(もらう)ことがある」と回答した人に対し、「レジ袋を買う(もらう)理由は何ですか(問 4)」と質問したところ、「ごみの内袋等として再使用するから」の回答が事前アンケート、事後アンケートともに多かった。事前アンケートにおいては、「指定ごみ袋がもらえるから」、「マイバッグ等を忘れたから」、「無料でもらえるから」の回答が多かった。事後アンケートにおいては、「マイバッグを忘れたから・持っているマイバッグに入りきらなかったから」、「レジ袋が無料の店舗を利用しているから」という回答が多かった。

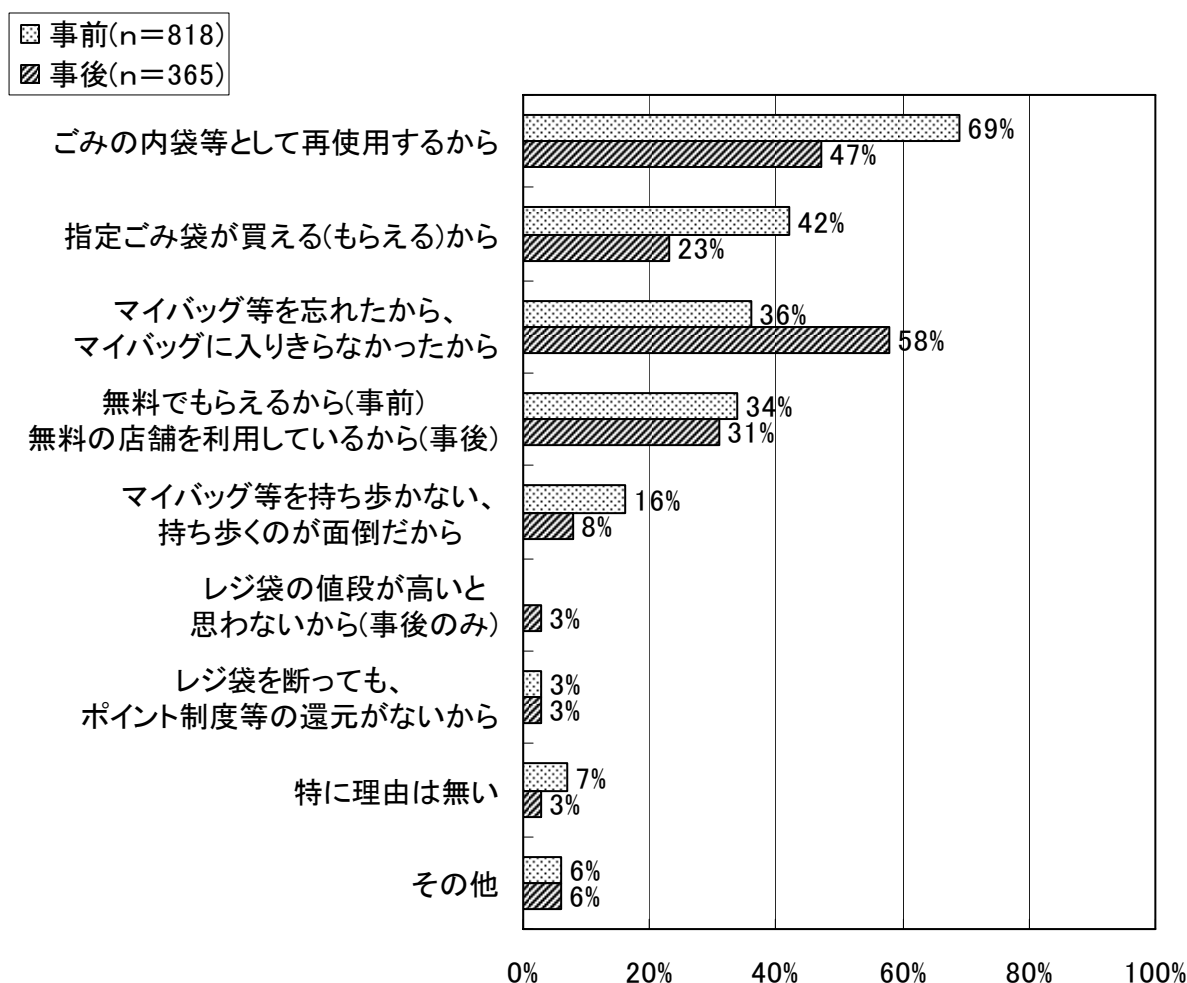


図 2.4 レジ袋を買う(もらう)理由(事前・事後アンケート)

レジ袋有料化の賛否

図 2.5 は事前・事後アンケートにおけるレジ袋有料化への賛否を示している。

「レジ袋の有料化についてどう思いますか。(問 5)」の回答については、「賛成」が事前アンケートでは50%、事後アンケートでは69%であった。また「反対」については事前アンケートでは19%であったが、事後アンケートにおいては8%となった。

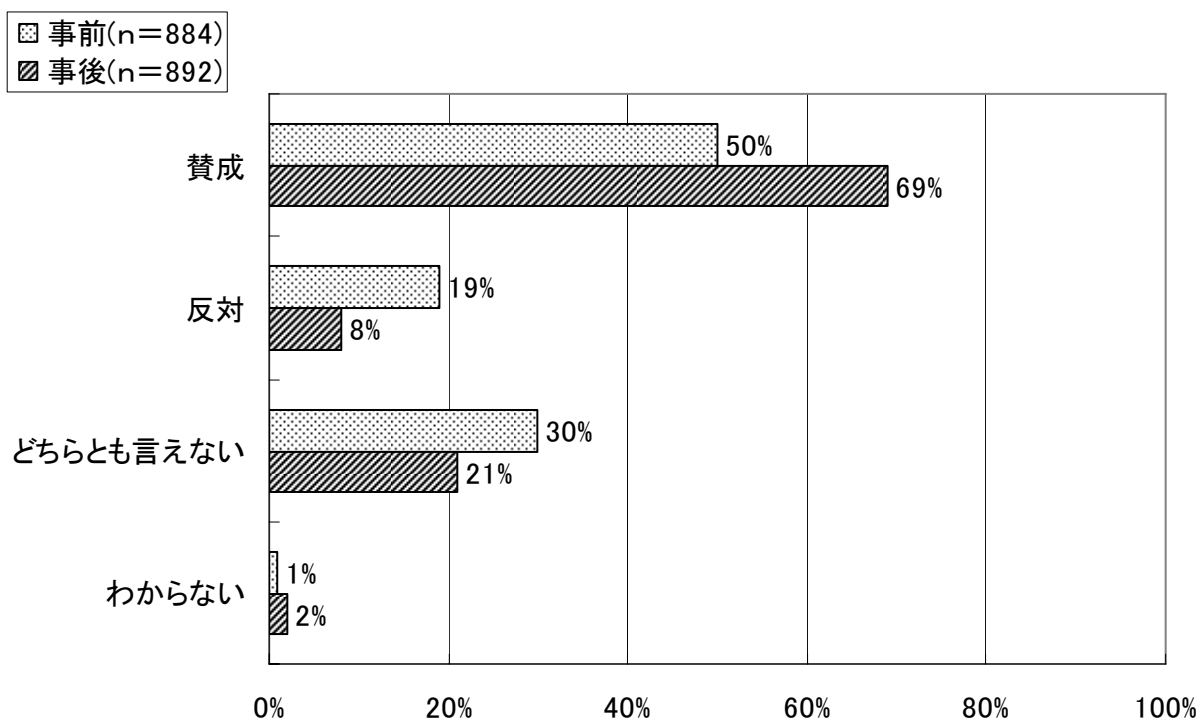


図 2.5 レジ袋有料化の賛否(事前・事後アンケート)

上記結果を比較すると、レジ袋の有料化を契機に、有料化に賛成する人が増え、反対する人が減ったといえる。また、どちらとも言えないという中庸の意見を持つ人も減り、賛否いずれかの見解に移行したということも伺える。

レジ袋有料化賛成の理由

図 2.6 は、事前・事後アンケートにおける有料化賛成の理由を示している。

問 5 で「レジ袋有料化に賛成」と回答して人に対し、「有料化に賛成の理由は何ですか。(問 6)」と質問したところ、「ごみの減量・地球温暖化の防止に役立つ」という回答が、事前アンケートでは 58%、事後アンケートでは 64%となった。また、「無駄な物をもらわないなど、消費者の意識が変わるから」という回答は、事前アンケートでは 26%、事後アンケートでは 27%であった。しかし、「レジ袋は利用する人が購入するべきと思うから」という回答に関しては、事前アンケートの 9%に対し、事後アンケートの 5%となった。

事前アンケートと事後アンケートの結果を比較しても、「ごみの減量・地球温暖化の防止に役立つから」という回答が共に最多であり、次いで「無駄な物をもらわないなど、消費者の意識が変わるから」という回答が共に多くなっている。

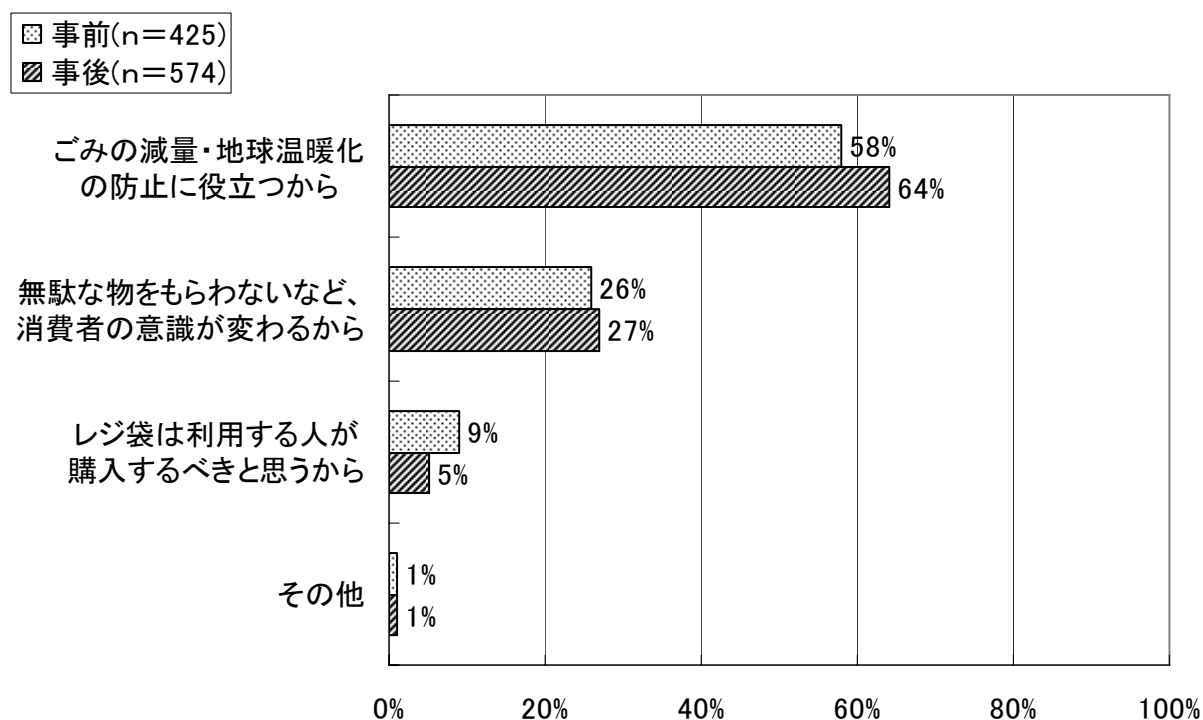


図 2.6 有料化賛成の理由（事前・事後アンケート）

レジ袋有料化反対の理由

図 2.7 は、事前・事後アンケートにおける有料化反対の理由を示している。

問 5 で「レジ袋有料化に反対」と回答して人に対し、「有料化に反対の理由は何ですか。(問 7)」と質問したところ、「ごみの内袋等として再使用するから」という回答が、事前アンケートでは 49%、事後アンケートでは 37%となった。また、「指定ごみ袋を買わないといけなくなるから」という回答は、事前アンケートでは 11%、事後アンケートでは 9%であった。そして、「レジ袋を購入するのがいやだから」という回答に関しては、事前アンケートの 8%に対し、事後アンケートでは 6%となった。「レジ袋の削減に意味はないと思うから」という回答には、事前アンケートでは 5%であり、事後アンケートでは 8%であった。

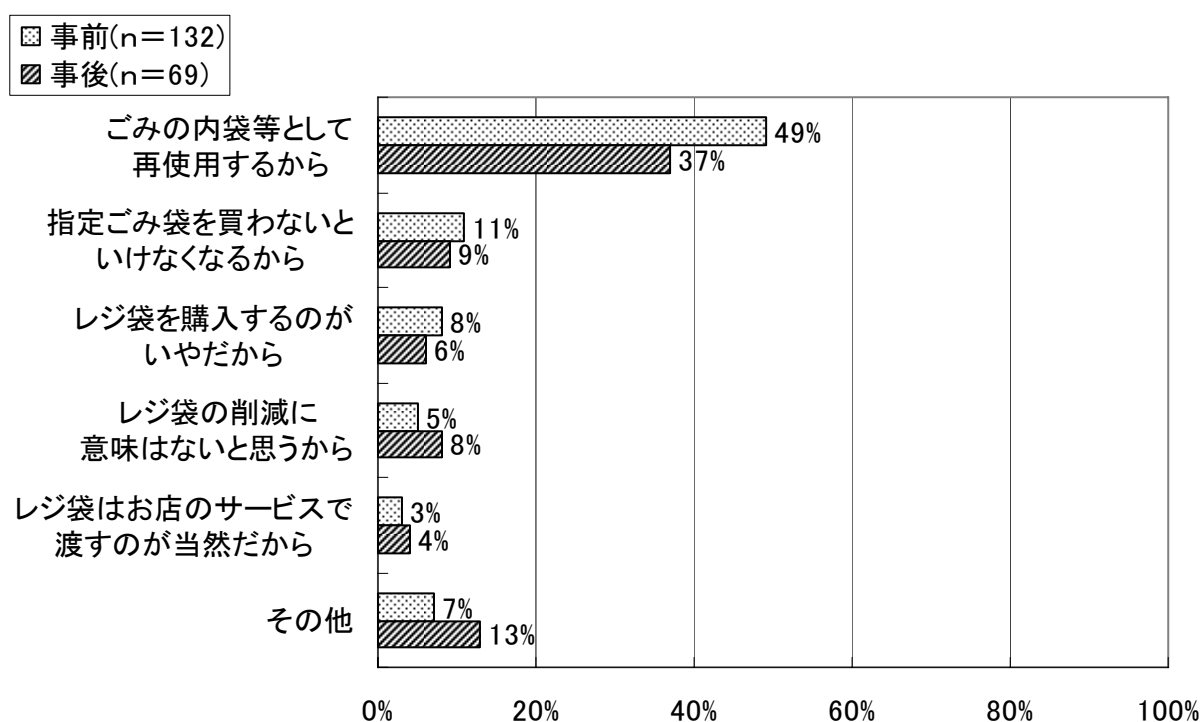


図 2.7 有料化反対の理由（事前・事後アンケート）

事前アンケートと事後アンケートの結果を比較すると、「ごみの内袋等として再使用するから」という回答が共に最多であるが、また逆に「レジ袋を購入するのがいやだから」という回答は概ね 3 分の 1 にまで減少した。レジ袋を内袋等別用途に使用する人は依然として多い。

レジ袋有料化への対応

図 2.8 は、事前・事後アンケートにおけるレジ袋有料化への対応を示している。

「レジ袋が有料になったらどうしますか。(問 8)」(事前アンケート)、「レジ袋が有料になってどのようになりましたか。(問 9)」(事後アンケート)において、「レジ袋を断っている(断っていた)」という回答は、事前アンケートでは 19%、事後アンケートでは 32%であった。有料化を契機として「断るようになった」という回答は、事後アンケートでは 51%であった。すなわち、事後アンケートによれば、「レジ袋を断ったり、断るようになった」と回答した人は合計 83%であった。

また、事後アンケートにおいては、「レジ袋が無料の店に行くようになった」という選択肢も加えたが、これを選択した人は、わずか 3%にとどまった。

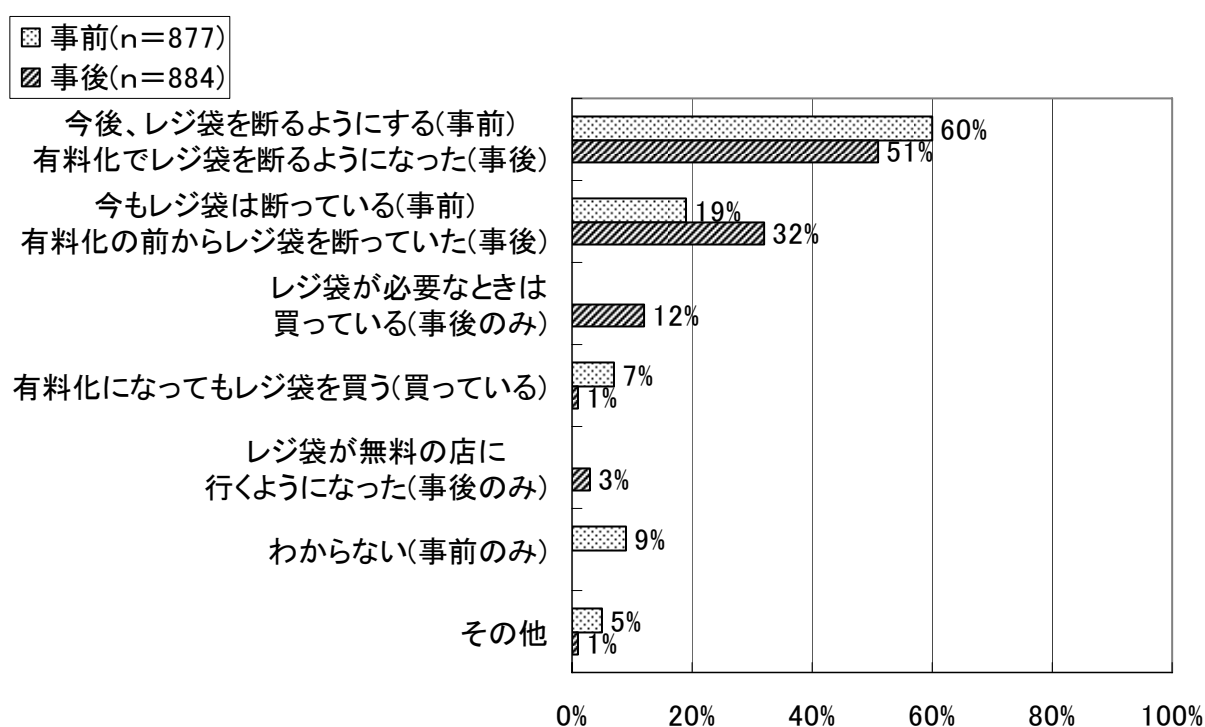


図 2.8 レジ袋有料化への対応（事前・事後アンケート）

レジ袋有料化後における買い物の量や回数

図 2.9 は、事後アンケートにおける有料化後における買い物の量や回数を示している。

すべての方に「レジ袋が有料化になって(マイバッグを使うようになって)お買い物の量や回数はどのように変わりましたか(問 10)」と質問したところ、「以前と変わらない(必要な分だけマイバッグを持っていたり、マイバッグで足りないときはレジ袋を買っている)」と回答が 69%であった。また、「マイバッグに入れる範囲でしか買い物をしなくなった(無駄なものを買わなくなった)」と回答が 24%であった。そして、「マイバッグではたくさん買えないので、買い物に行く回数が増えた」という回答に関しては、3%となった。「その他」という回答には 4%であった。

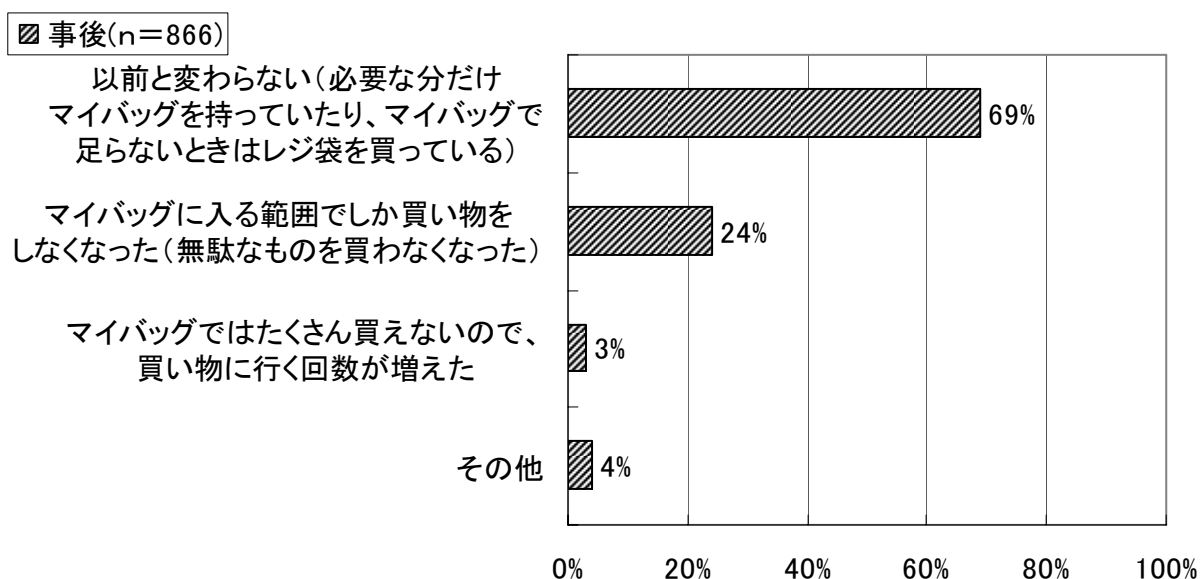


図 2.9 有料化後における買い物の量や回数(事後アンケート)

回答者の性別

図 2.10 は、事前・事後アンケートにおける回答者の性別の内訳を示している。

回答者の性別の内訳は、事前アンケート・事後アンケート共に 7 割以上が女性であった。

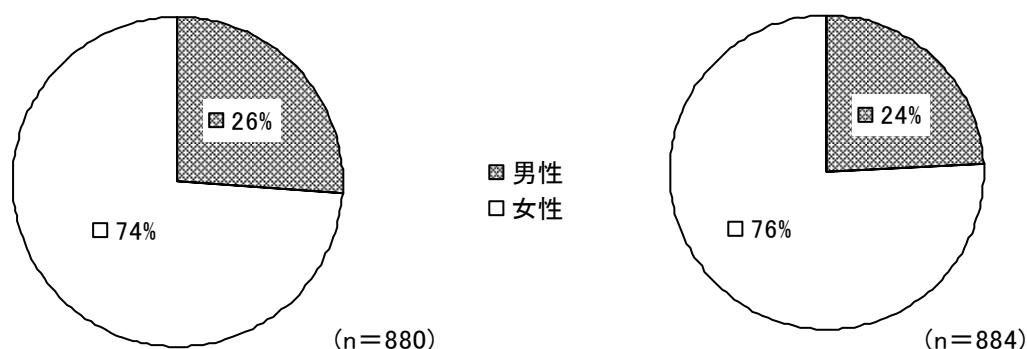


図 2.10 回答者の性別の内訳 (事前・事後アンケート)

回答者の年齢

図 2.11 は、事前・事後アンケートにおける回答者の年齢の内訳を示している。

事前・事後アンケート共に 30～60 歳代で 7 割をこえている。全体としては、概ね各年代からバランスよく回答をいただいた。

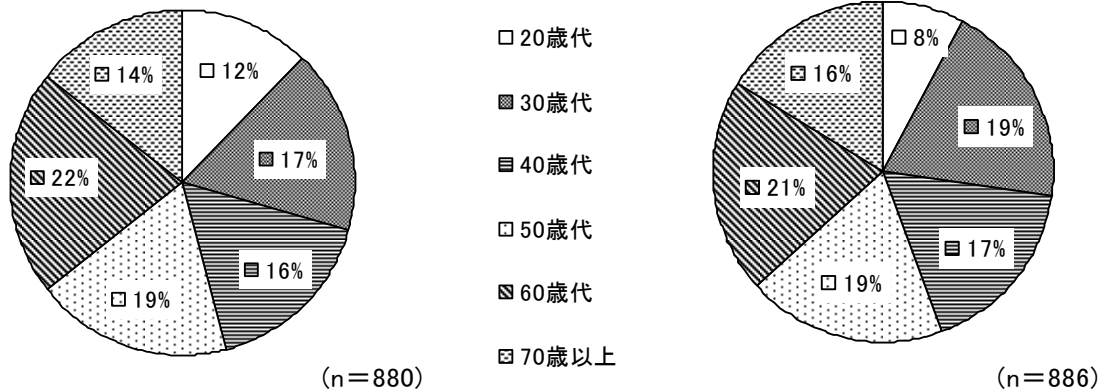


図 2.11 回答者の年齢の内訳（事前・事後アンケート）

回答者の職業

図 2.12 は、事前・事後アンケートにおける回答者の職業の内訳を示している。

事前・事後アンケート共に「家事専業」の割合が最も高く、次いで「会社員・公務員」が多くなっていた。

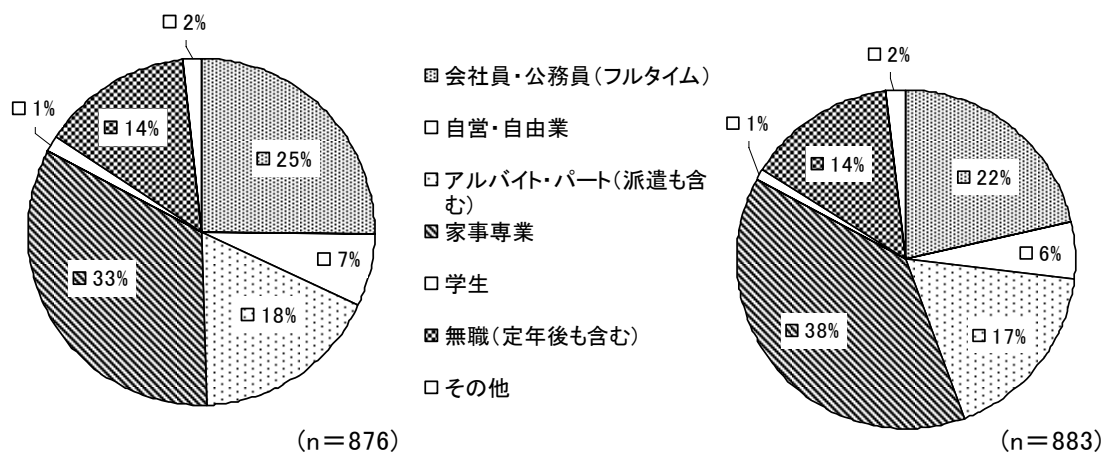


図 2.12 回答者の職業の内訳（事前・事後アンケート）

買い物の際の交通手段

図 2.13 は、事前・事後アンケートにおける買い物の際の交通手段を示している。

「お買い物の交通手段は何ですか。(事前／問8)(事後／問9)」において、共に「自動車」という回答が6割近くを占めた。次いで「徒歩」が約25%を占め、「自転車」が約13%を占めた。

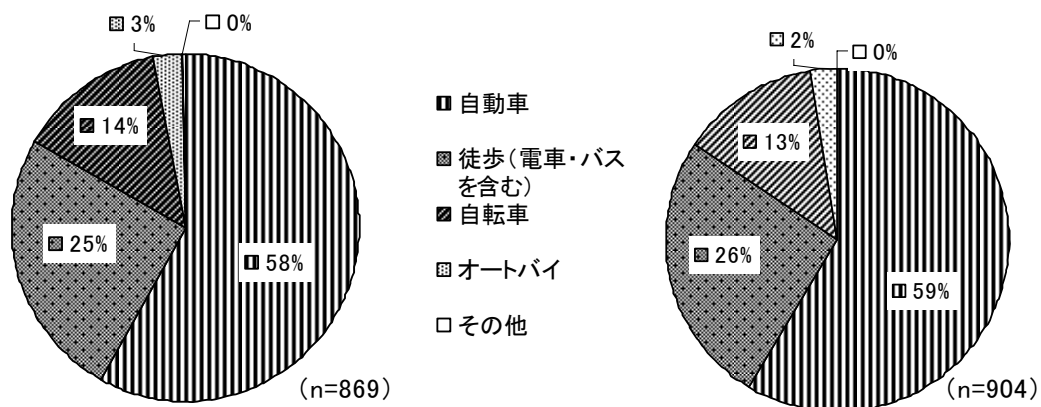


図 2.13 買い物の際の交通手段(事前・事後アンケート)

3. アンケートの分析結果

本節では、上記2. アンケートの集計結果を踏まえ、その中から特に関連の深い事項、または関連を把握すべき事項についてクロス集計を行い、回答傾向を分析した。

以下に、分析項目それぞれについて事前アンケート・事後アンケートとの比較を行いながら分析する。

3.1 レジ袋の辞退とレジ袋有料化への賛否との関連(事前・事後共に問1×問5)

「普段の買物の際、レジ袋を断っていますか。(問1)」と「レジ袋の無料配布を止めて有料化することについてどう思いますか。(問5)」との関連を調べた。

事前アンケート・事後アンケートともにレジ袋を断る頻度が高い人ほど、レジ袋有料化に賛成していた。
(事前: $\chi^2(9)=155.8, p<.01$ / 事後: $\chi^2(9)=89.5, p<.01$)

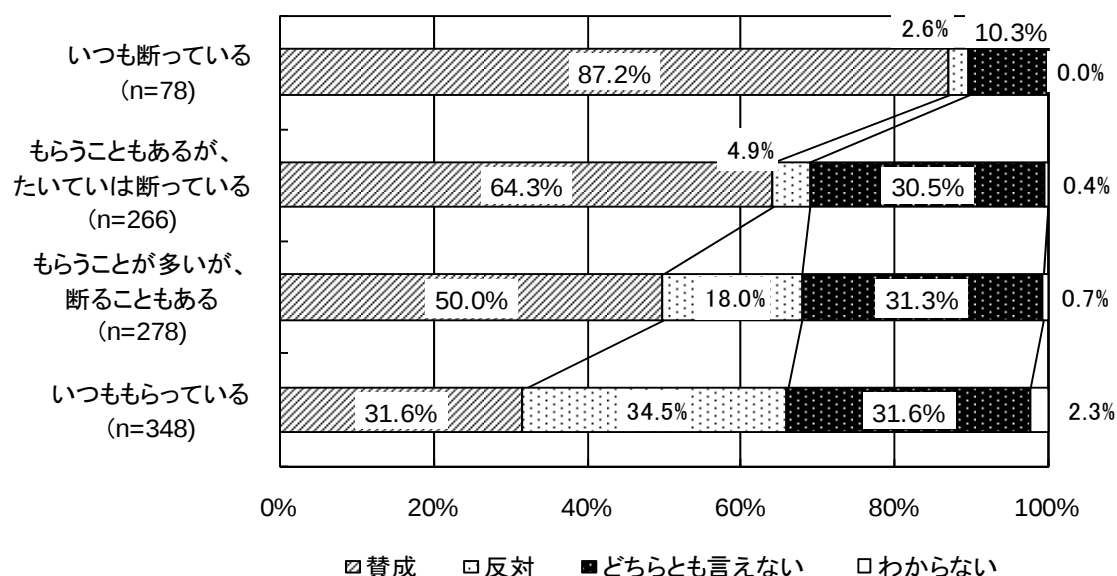


図 3.1 レジ袋の辞退とレジ袋有料化への賛否との関連(事前アンケート)

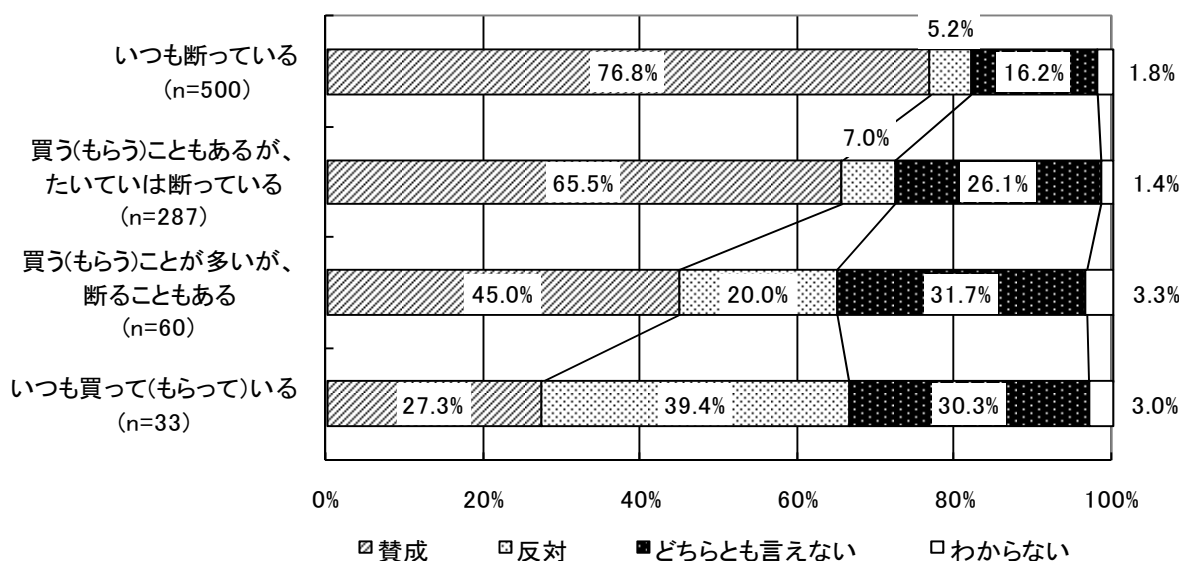


図 3.2 レジ袋の辞退とレジ袋有料化への賛否との関連(事後アンケート)

3.2 レジ袋有料化に伴う行動とレジ袋有料化への賛否との関連

(事前:問 8×問 5/事後:問 9×問 5)

事前アンケートについては、「レジ袋が有料になったらどうしますか。(問 8)」と「レジ袋の無料配布を止めて有料化することについてどう思いますか。(問 5)」との関連を調べ、事後アンケートについては、「レジ袋が有料になってどのようになりましたか。(問 9)」と「レジ袋の有料化についてどう思いますか。(問 5)」との関連を調べた。

事前アンケートにおいては、現在既にレジ袋を断っていたり、今後レジ袋を断ろうとしている人ほど、レジ袋の有料化に賛成していた。また、事後アンケートにおいてもほぼ同様の傾向を示しており、実際にレジ袋を断っている人ほどともにレジ袋を断る頻度が高い人ほど、レジ袋有料化に賛成していた。(事前: $\chi^2(12)=253.4, p<.01$ / 事後: $\chi^2(15)=129.2, p<.01$)

ただし、事後アンケートにおいて、「有料化になってもレジ袋を買っている」という質問については、回答者総数が少なかったため(n=7)賛否の割合が判断しにくいことを注記しておく。

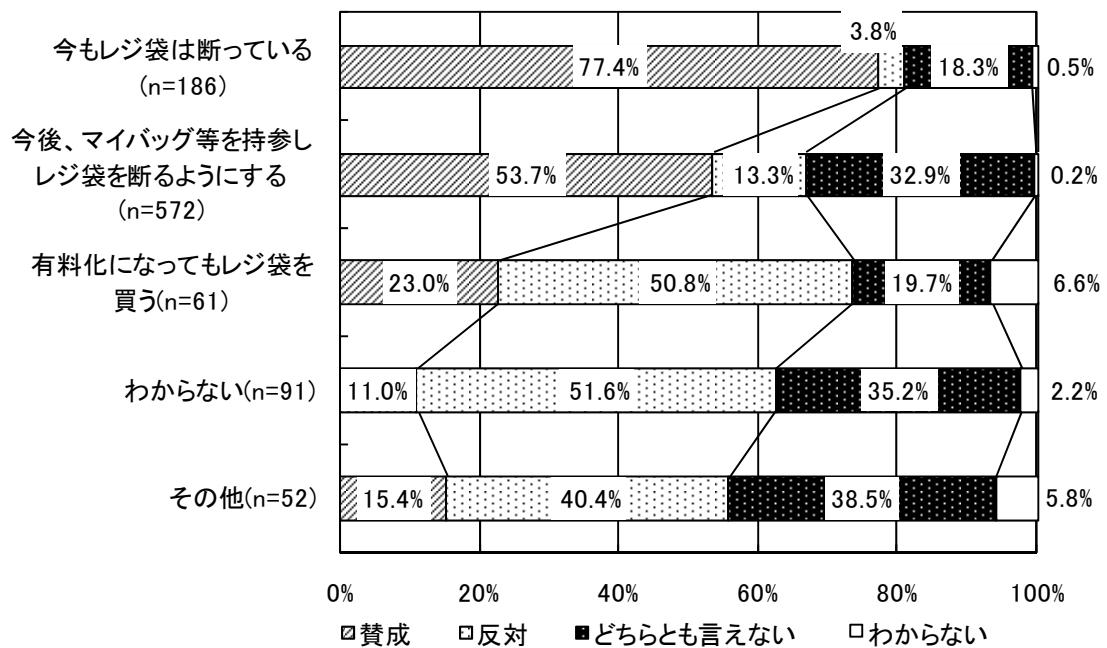


図 3.3 レジ袋有料化に伴う行動とレジ袋賛否との関連(事前アンケート)

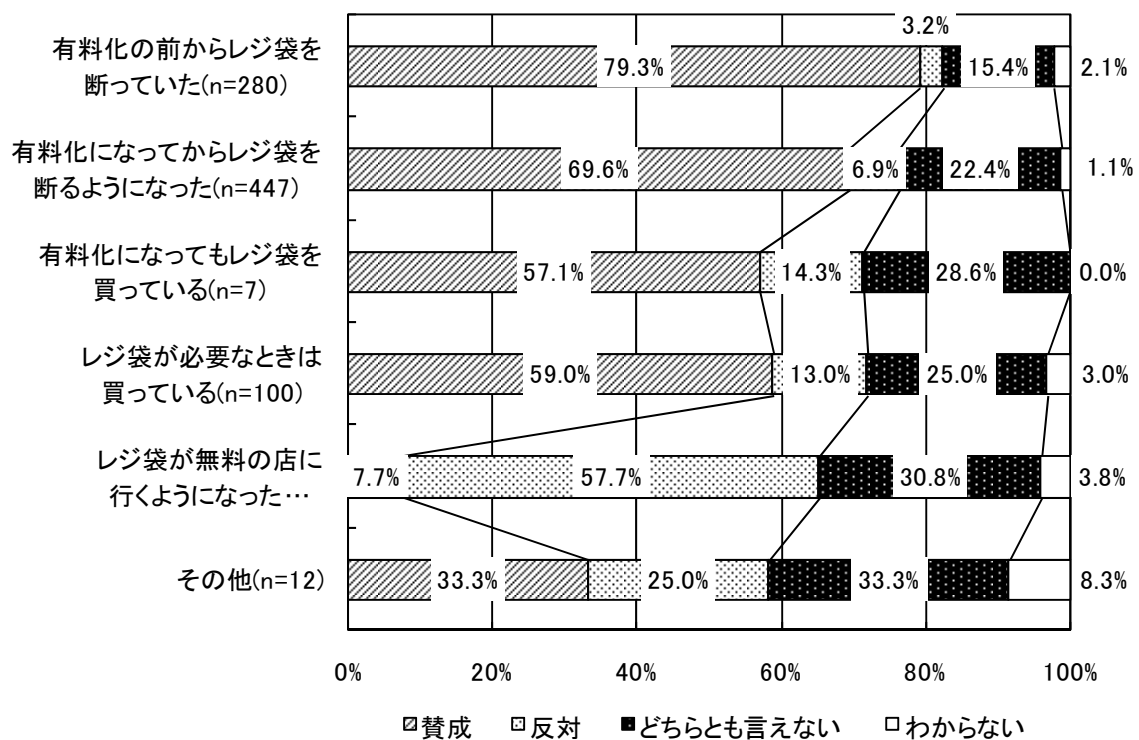


図 3.4 レジ袋有料化に伴う行動とレジ袋賛否との関連(事後アンケート)

3.3 性別とレジ袋の辞退との関連(事前・事後共に F1×問 1)

「あなたの性別は(F1)」と「普段の買物の際、レジ袋を断っていますか。(問 1)」との関連を調べた。

事前アンケート・事後アンケートともに女性ほどレジ袋を断っている人が多いことが判明した。(事前:
 $\chi^2(3)=26.2, p>.01$ / 事後: $\chi^2(3)=50.2, p<.01$)

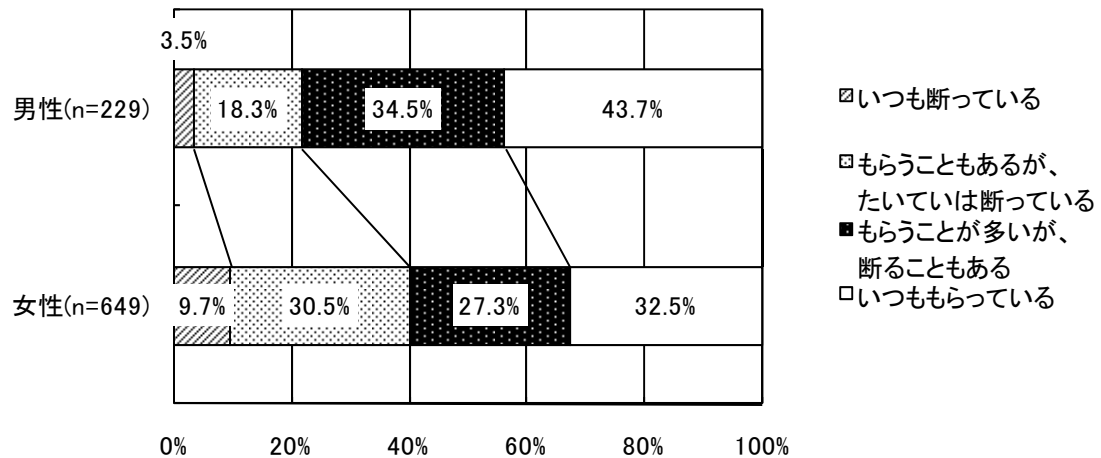


図 3.5 性別とレジ袋辞退との関連(事前アンケート)

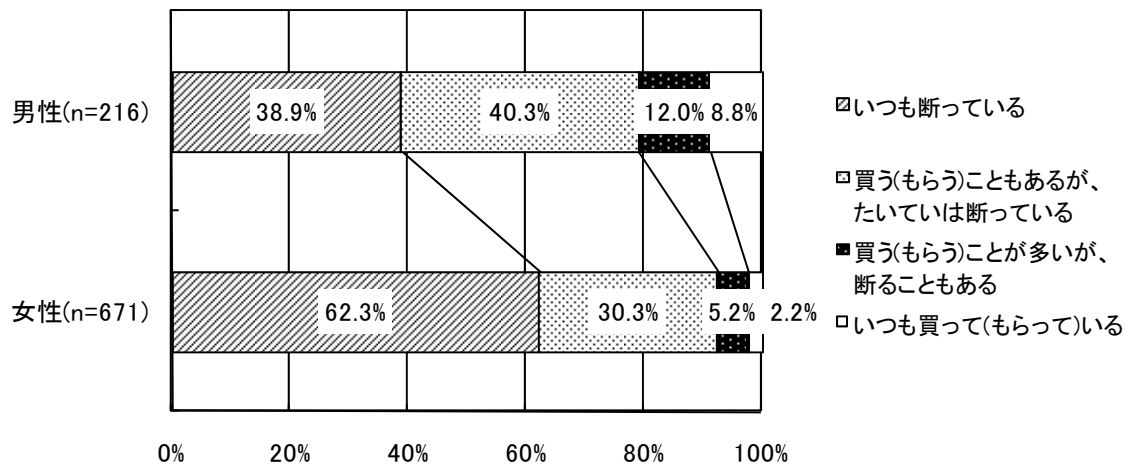


図 3.6 性別とレジ袋辞退との関連(事後アンケート)

3.4 年齢とレジ袋の辞退との関連(事前・事後共に F2×問 1)

「あなたの年代は(F2)」と「普段の買物の際、レジ袋を断っていますか。(問 1)」との関連を調べた。

事前アンケート・事後アンケートともに、20 歳代・30 歳代という若い世代よりも、40 歳代以上の世代ほどレジ袋を断っている人が多いことが判明した。(事前: $\chi^2(15)=63.4, p>.01$ ／事後: $\chi^2(15)=62.7, p<.01$)

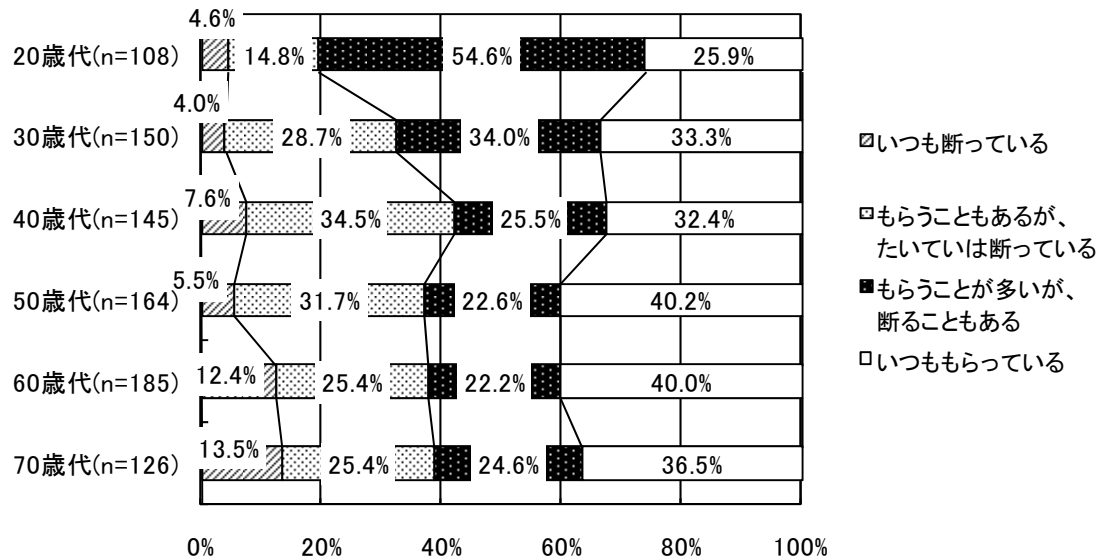


図 3.7 年齢とレジ袋辞退との関連(事前アンケート)

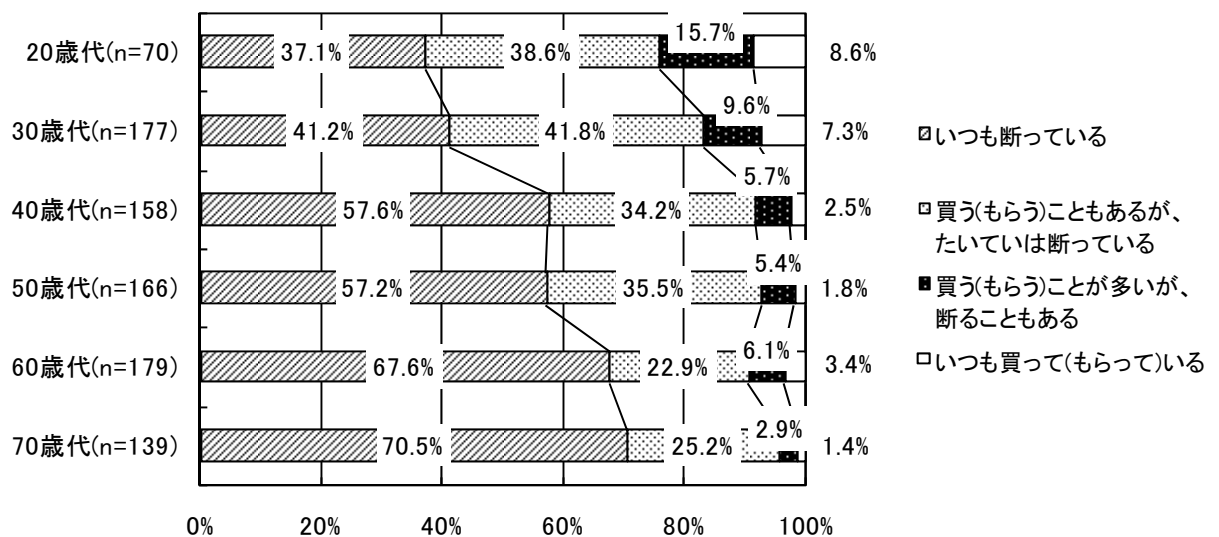


図 3.8 年齢とレジ袋辞退との関連(事後アンケート)

4. アンケート結果の分析のまとめ

本アンケートにおける回答者の属性について、事前アンケート・事後アンケートともに、性別については4分の3を女性が占めた。年齢については、20歳台から70歳以上まで概ねバランスよく均等な割合であった。さらに、職業については、家事専業が最も多く、次いで会社員・公務員、アルバイト・パートの順となり、これらを合わせると全体の4分の3を占めた。また回答者の殆どが女性であったことを注記しておく。

回答の傾向を順に見てみると、レジ袋の辞退の状況については、事前アンケートではいつももらっている人が最も多かったが、事後アンケートではいつも断っている人が最も多くなった。これは、レジ袋有料化の影響が直接的に現れた結果であるといつてよいであろう。

次に、マイバッグ等の持参状況については、レジ袋を断る際には、マイバッグの利用が圧倒的に多く、有料化を経てさらに持参が進んだ結果となった。

また、レジ袋を辞退する理由について、事前・事後とも環境問題解決への貢献を理由に挙げる人が最多であった。事後アンケートにおいてはレジ袋が有料であることを上げる人が多かった。このことから、経済的要因もレジ袋の辞退に効いているといえよう。

逆にレジ袋を買う(もらう)理由については、レジ袋として使用した後に別用途として使ったり、あるいは荷物がマイバッグに入りきらなかったことを挙げている人が多く、レジ袋を他の用途に用いたり、または予想外の事態への応急措置時に使用する場合に起因していることが明らかになった。これは、レジ袋有料化反対の理由としても同様の項目が挙げられている結果となった。

有料化への賛否については、事前・事後を比較すると、事前アンケートにおいても、賛成の声が多かったが、事後アンケートにおいて賛成が増えた。同時に、分からないという中庸な意見の人が事後アンケートにおいて減少した。また、いつもレジ袋を断っている人ほど有料化には賛成であることが判明した。

レジ袋有料化への対応に関しては、有料化を契機にレジ袋の辞退は大幅に促進される結果となり、事後アンケートの結果を見れば、有料化以前から辞退していた人も含め、80%を超える人がレジ袋を辞退する結果となった。

最後に、性別・年齢とレジ袋辞退との関連については、女性ほどレジ袋を断っており、年齢の高い層ほどレジ袋を断っているという結果を見出すことができた。